

新入社員への手紙

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。
社会人としての新しい人生がスタートし、心配や不安もある
反面、希望と期待を胸に新たな一歩を踏み出された皆さんに、
さまざまな経験を積んで活躍されている先輩方から、アドバイスをいただきました。きっと、“土木の魅力とやりがい”
を感じ取ることができるはずです。
今回は、「1級土木施工管理技術検定試験受験準備講習会」
の講師の方々と「事業運営委員会」の委員の方からのメッセージです。

- “一番つらかった仕事” と “一番楽しかった仕事”2
(株)間組 安全本部安全部部長 水野 健介
- 工事完成時の感激を忘れずに!4
(株)NIPPO 東京統括事業所所長 赤池 利孝
- オーダーメイドのものをつくる「喜び」と「達成感」を味わおう6
(株)熊谷組 首都圏支店 入谷駅作業所所長 柏原 貴彦

“一番つらかった仕事”と “一番楽しかった仕事” 「苦労」と「誇り」が仕事と人生の糧



株式会社 間組 安全本部安全部部長
水野 健介

新入社員のみなさん、入社おめでとうございます。

社会人としての新しい人生が始まります。これから一つひとつの経験が、皆さんの土木技術者としての新しい姿をつくっていきます。

私は、「建築工事係」として会社に入ってから18年間を現場で過ごし、現在は「安全管理」の仕事に携わっています。私が就職した頃は、第一次オイルショックのあおりを受け、最近のような内定取り消しこそなかったものの、翌年から採用を手控えたせいで、何年も部下のいない状態が続きました。年を重ね、役職に応じた仕事をするようになって、あいかわず雑用もこなさなければならず、おかげで随分とタフになりました。我々の世代は、“しぶとく打たれ強い”と同期の連中とよく話をします。

昔から、土木屋、建築屋という言い方があります。入社して最初の現場は、新幹線の駅舎工事で土木の仕事もあり、同じ寮に土木屋さんたちもいました。その後、ダム現場で建築の仕事があったり、安全パトロールで土木現場に行ったり、土木屋さんとは接する機会が増えました。右も左もわからない新入社員の当時でも、土木屋と建築屋は随分違うものだと感じていましたが、私の印象では、建築屋さんはミリ単位や不陸のない仕上げを要求さ

れるにもかかわらず、案外おおざっぱなところがあり、むしろ土木屋さんの方が緻密だ
と思います。

皆さんは、これからいろいろな工事に携わります。その中には、つらい仕事も楽しい仕
事もあると思います。

若かりし頃、休みもなく毎日遅くまで働いていた現場勤めの時、“これが終わったらも
う会社を辞めるぞ”と思いながら仕事をしていたことがあります。そして、その工事が終
わった時、拍子抜けしたようにフワーッと力が抜け、頭の中が真っ白になりました。次の
日はみんな仕事を休み、私は現場近くのレストランで食事をしながらボーっと過ごしてい
ました。その時の“えも言われぬ感覚”が忘れられず、仕事を続けていく気になりました。
それ以来、“終わらない現場はない。ただし、一所懸命やらなければならない”と、自分
に言い聞かせて仕事に取り組みました。

今思い起こすと、私が仕事を辞めずにこられたのは、“一番つらかった仕事”と“一番
楽しかった仕事”があったからです。少しくらいきつくても、“あの仕事に比べればたい
したことはない”と度胸がすわり、また、“この作品が私の一番の仕事だ”と誇りを持つ
ことができる仕事にも出会いました。この「苦勞」を経験し、「誇り」に思うことが仕事
であり、そして人生の糧となりました。

私事ばかり述べてきましたが、私から皆さんに「三つのお願い」があります。新入社員
の皆さん、是非心にとどめて、目の前に広がる建設の世界に大きく羽ばたいてください。

三つのお願い

1. 現場や会社だけに閉じこもらず、幅広い視野を持ってください

人間に大切なものは、「知性」、「品性」、そして「感性」だと思っています。「感性」は「知性」、「品性」の源です。いろいろなものに触れて「感性」を磨いてください。

2. 人との出会いを大切にしてください

仕事は上司や先輩からだけに教わるものではありません。発注者や設計監理者をはじめ、協力会社・近隣の方々からも学ぶことがたくさんあり、また、この方たちと再会することがあります。その時のために、最初の出会いを大切にしてください。出会いは大きな力となります。

3. 『安全』を最上の価値観としてください

「安全」なくして仕事はあり得ません。「自身の安全」、「工事の安全」を常に念頭に置いてください。

工事完成時の感激を 忘れずに!



株式会社 NIPPO 東京統括事業所所長
赤池 利孝

将来の土木業界を担う技術者の皆さん、入社おめでとうございます。

皆さんは、100年に一度と言われる世界同時不況、政権交代による公共工事の削減など、過去にない厳しい時代に入社されました。

しかし、我々土木技術者は、いつの時代でも必要とされている職業です。どうか自信を持って、技術職としての力を発揮していただきたいと思います。

私は35年前に入社し、入社後3年位までは、東京都内の道路打換工事や高速道路・空港のオーバーレイ工事など、ほとんどが夜間の舗装工事に携わり、現場で工事写真の手元や丁張りの杭打ちなど、先輩の補佐役として従事していました。

交通量の多い中、作業服を真っ黒にし、仕事が終われば宿舎に帰り、酒を飲んで寝るだけの生活をおくっていました。

まさに、3K（危険・汚い・きつい）の体現者であります。

また、住民からの騒音・振動の苦情、運転者からの渋滞の苦情などがあれば、その処理に追われたことも多々ありました。

「仕事はきついし、遊ぶ時間も取れない。こんな職業は変えよう」と思った時期もありま

した。しかし、仕事を覚えてきた頃から徐々に品質や出来形管理、あるいは外注管理などを任せられるようになって、段々と仕事に興味を持てるようになってきました。

工期中はいろいろな困難がありましたが、自分が組織の一員となり、思い描いていたものが完成した時の感激はひとしおです。なおかつ、住民から「道路が静かになった」とか、運転者から「渋滞が減って走りやすくなった」などの評価を得られた時は、土木屋冥利に尽きます。

工事が完成した時の感激やエンドユーザーの高評価を再び味わいたくて、「更に良いものをつくりたい」との向上心が湧いてきたことは確かです。

この業界において、私の諸先輩方も同様な経験をしていることと思います。

入社される皆さんも、仕事を覚えるまではおもしろくない、きついなど感じることもあるでしょう。

しかし、独力で現場を采配し、工事を完成できるようになれば、ますます仕事に興味が湧き、前向きに物事を捉えられることができると思います。それまでは、現場での経験を多く積んで技術力の向上を図るよう、しっかり勉強することが大切です。

ただ、我々のものづくりは一人ではできません。発注者や沿道住民、協力業者など、大勢の人の力で成り立っています。「人とのコミュニケーション」、「人への思いやり」も大事な要素となります。

皆さんが頑張れば、優秀な現場代理人や監理技術者になれます。もっと頑張れば、会社の社長にもなれるかも知れません？ 夢と希望を持ち続け、ものづくりに邁進していきましょう。

最後に、入社される皆さんが、土木業界を背負う立派な土木技術者になられることを祈念いたします。

オーダーメイドのものをつくる「喜び」と「達成感」を味わおう



株式会社 熊谷組 首都圏支店 入谷駅作業所所長
柏原 貴彦

土木の世界に入って来られた新入社員の皆様、入社おめでとうございます。

百年に一度の不況の中、よくぞ土木技術者を志してくれました。頼もしく思います。

【日本の土木技術とその価値】

世界に誇る土木技術が育った理由は、日本人の緻密さと日本の地形、つまり狭い国土を有効利用するために培った技術の蓄積だと思います。現在の日本社会において、土木業界が厳しい視線で見られていることは事実だと思いますが、必要なライフラインや交通網の建設、そしてこれら構造物の経年劣化が着実に進んでおり、土木技術なくして国民の安定した暮らしはないと考えます。

皆様がこれからつくるものは、工場で同一製品を大量生産するのではなく、その場所の地形や地質の条件に合わせたオーダーメイドの作品なのです。世の中で唯一の作品をつくる喜びや達成感を必ず味わえると思います。

【私が今まで経験してきたもの】

(株)熊谷組に入社して26年、そのほとんどが現場での施工管理やマネジメントの仕事に携わっていますが、新入社員で配属された現場のことは今でも鮮明に覚えています。入った

時は何もわからず、とにかく先輩に聞きまくり、時には「こんなことも知らないのか」と叱られたこともありましたが、わからないままでは現場を管理することはできないという気持ちがあり、よく質問をしました。

しばらくすると、この現場所長の人間性や判断能力に憧れ、自分も所長になりたいと思うようになりました。所長になるためには、とにかく現場で経験したものを自分のもの にすること。そして、その技術を裏づけるものは、発注者の仕様書や設計図書、その他必要な仕様書など、土木技術者に必要な教科書を、少なくとも現場で行う工種については勉強することだと思いました。

また、その現場で先輩に言われたことは「歩掛りをとれ!」。これは現場の予算がどのようにして構成されているか、つまり、この作業には作業員が何人必要で、どんな機械で工事を行うかをつかめというものでした。なかなかパーフェクトに先輩の言うことを実行できませんでしたが、何年か経つうちに、先輩や発注者の監督員から信頼を得られるようになりました。

そして、今から10年程前にやっと所長になることができ、現在までに6現場の所長を経験しています。各現場にはいろいろな思いがありますが、工事が始まる時には、毎回、「この現場は本当に完成できるのか?」と思ってしまいます。そんな不安を払拭してくれるのが、今まで培ってきた確かな技術と良いものをつくろうという技術者としてのプライドだと思います。

そして、多くの先輩や部下に支えられながら、現在は地下鉄の駅増築工事を行っています。その工事の発注者は、新入社員の時に配属された現場と同じ発注者で、その当時の監督員に再会することができました。その時の苦労話しをする機会もあり、あらためて自分の技術者としての原点は、初めて配属された現場だと認識しています。

新入社員の皆様は、何事においても誠意とプライドを持って、ものをつくる喜びと達成感を味わっていただければと思います。